

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

まず、「評価項目（案）」について、それ自体には特に意見はありませんでしたが、原地区の戦略案（代替素案）は、貨物駅を原地区に移転しない場合を指すのではなく、現状に対する代替案だということから、比較評価するのが難しいのでは、という疑問が挙げられました。

次に、前回までの議論をまとめた「地域づくりの戦略案（代替素案）」については、基本的には十分に意見が反映されているということでした。加えるとすれば、原 IC から自動車呼び込むためには南北の道路整備、人が立ち寄る施設の整備が重要で、そのことで原地区を元気にしたいという意見がありました。また、海岸線を有効活用するための拠点、沼川沿いの桜並木を活かした魅力づくり、女鹿塚自然の村の計画、なども提案されました。

その後、様々な提案が出されている西側ゾーンについて、貨物駅が原地区に移転しない場合と移転する場合の両方について戦略案（代替素案）を練りました。

貨物駅が原地区に移転しない場合については、大きくは2つの活性化のアイデアが出されました。1つは、医療施設と介護、ケアの施設を核にして、高齢者の居住施設や体験型の農園、散策路、体育館などのスポーツ施設を展開し、雇用拡大や農業振興等にもつなげていく案です。周囲には、医療関係の研究施設の立地なども期待できるというご意見です。一方、現実的には、海に近い立地は津波のリスクが高いというマイナスイメージがあり医療関連施設の立地を懸念する意見もありました。また、この案では、事業主体として県は想定しにくく、民間が主体となるだろうが、現実性が低いのではという意見も出されました。もう1つは、海を活かしたレジャーの場とする案です。現在、原地区の海岸線には、地引網や釣りに来る客もおり、またウミガメの産卵も見られることから、海を生かした観光拠点を中心にして、バーベキュー施設や富士山の見えるビューポイントのある公園を整備していくとよい、という提案がありました。

貨物駅が原地区に移転する場合については、まず東駿河湾環状道路が整備されると伊豆方面への物流ルートができるので、原が物流拠点になりうることから、周辺に企業誘致が可能となり、雇用が広がるという期待がありました。他にも、個々の企業が調整池などを整備すれば治水対策が進む、貨物駅の管理棟が津波の避難タワーとして活用できるという期待も挙げられました。また、貨物駅が移転した場合でも、海を活かした公園づくりは可能だという意見がありましたが、大型車が頻繁に通ることなどが想定され、貨物駅と観光が両立できるか不安だという声もありました。なお、検討課題として、今後の貨物需要という視点で貨物駅の必要性があるのかどうか、本当に周辺に企業を誘致できるのかを検証したいというご意見が出されました。

最後に、今後、原地区にて活性化に向けて何もしない場合には、雇用がなく魅力がない地区になり、若者が去り、高齢化がさらに進んでいくだけだということが懸念されています。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Bグループ】

前回に続き、評価項目と代替素案について検討しました。

まず、前回の意見を反映して修正された「評価項目（案）」については、今後の比較検討で常に立ち返るものになるため、読み上げ確認を行いました。その後の議論では、「地域づくりの目標」に対して複数の評価項目が示されている項目があり、「地域づくりの目標」と「評価項目」の対応が分かりづらいので、一対一で対応させて書かれているほうが、初めて目にする人にも理解しやすいのでは、との提案がありました。

「地域づくりの戦略案（代替素案）」に関連して、前回のグループ討議の概要について、原地区の発展、振興に寄与するには、東名スマートICから浮島インターを通り原駅や海まで至る南北軸、原駅周辺、および原インターを含んだ、原地区の「中央部」の整備が必要であり、「中央部」を核にして、東部の歴史文化エリアや西部の自然環境保全エリアへ人を誘うことが、地域づくりには重要との提案をし、「中央部」の存在を強調したが、そのことが表現されていないとの指摘がありました。また、これまで提案してきた健康文化タウン、女鹿塚の村、医療系大学などの記載がないとの指摘や、前回意見の出た霊園、メモリアル公園は削除したらどうか、との指摘がありました。

今回、「地域づくりの戦略案（代替素案）」については、主に「西側ゾーン」について議論を行いました。

まず、貨物駅予定地を含むゾーンでもあることから、これまでの原地区や貨物駅移転事業に関連する経緯、想いなどを語りあい、お互いの立場の違いや抱えている問題などを共有しました。最初から貨物駅移転を良しとしていたわけではないが、手続きに則って計画され、多くの話し合いを重ね、受け入れることを決断したものであるから、そのまま進めてよいのではないかと、との意見がある一方で、計画当初と時代背景や市民の生活が変わったので、時代にあった計画に見直していく必要があるのではないかと、との意見が出されました。

貨物駅が移転しない場合には、貨物駅予定地の長さ2km、幅80mという細長い土地の現実的な活用方法があるのかという投げかけが参加者からあり議論を行いました。大きな施設をつくるのは難しいかもしれないが、沼津市には車で行ける公園が少ない、単に遊べるだけでなく、自然に触れる、農体験やスポーツができる公園施設があるとよい、中道（なかみち）から県道（旧国道1号）までの未活用の土地も活かして、津波対策を兼ねた施設があるとよい、といった提案が出されました。

総じて、西側ゾーンについては、参加者同士、ときにこれまでの想いをぶつけあいながらも、前回までに描いてきた原地区の将来像を実現させるために、西側ゾーンの将来像を早く定めることが重要であるとの意見が共通して出されました。